

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.2-2; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009265

1977・6 2_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



論文

ミクロネシアの養取慣行——族制、土地所有、分配体系との関連で——須藤健一

Violence and Leagal Sanction in an East African Town——OMORI, Motoyoshi



資料・研究ノート

マオリ研究の系譜とその展開——石森秀三

慶良間群島の祭団連合——沖縄の民族宗教ノート——伊藤幹治

中部地方タケカゴ細工の諸相——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(3)——中村俊亀智



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

2 卷 2 号

1977年6月

目 次

論 文

- ミクロネシアの養取慣行
——族制, 土地所有, 分配体系との関連で—— ……………須 藤 健 一…… 245
- Violence and Legal Sanction
in an East African Town ……………OMORI, Motoyoshi…… 282

資料・研究ノート

- マオリ研究の系譜とその展開……………石 森 秀 三…… 306
- 慶良間群島の祭団連合
——沖縄の民族宗教ノート——……………伊 藤 幹 治…… 336
- 中部地方タケカゴ細工の諸相
——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(3)——……………中 村 俊 亀 智…… 351

調査研究活動報告

- アメリカ合衆国にラテンを求めて
——ニュー・メキシコからメキシコへの旅——……………黒 田 悦 子…… 377
- ブルガリア民族学の旅……………加 藤 九 祚…… 393
- 国立民族学博物館ハルマヘラ調査隊概報……………石 毛 直 道…… 423

彙 報…………… 430

国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 434

国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 435

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 2 No. 2

June 1977

SUDO, Ken-ichi	Adoption Customs in Micronesia	245
OMORI, Motoyoshi	Violence and Legal Sanction in an East African Town	282
ISHIMORI, Shuzo	Maori Studies: Yesterday, Today and Tomorrow.....	306
Ito, Mikiharu	Cult Groups in Kerama Islands —Notes on Folk Religion in Okinawa (1)—	336
NAKAMURA, Takao	Basket-working in Japan(3): Chūbu Area.....	351
KURODA, Etsuko	In Search of the Chicanos in New Mexico —a Journey from New Mexico to Mexico—	377
KATO, Kyuzo	Bulgaria —an ethnological travelogue—	393
ISHIGE, Naomichi	Preliminary Report of the Halmahera Research Project by National Museum of Ethnology	423

彙報

(昭和52年1月～)
昭和52年3月)

人事異動

昭和52年

1月1日 友枝啓泰（埼玉大学助教授）を第2研究部に配置換

3月1日 佐々木隆夫（大阪大学大型計算機センター）は、情報管理施設技術室に転任

館内各種委員会委員の追加

映像・音響委員会

友枝啓泰

研究部運営委員会

友枝啓泰

展示のためのプロジェクト・チームの増員

アメリカ展示

友枝啓泰

国立民族学博物館東南アジア・セミナー

(NME SEMINARS ON SOUTH-

EAST ASIA)

日時 昭和52年3月16日（水）—18日（金）

場所 国立民族学博物館

趣旨 東南アジアの研究者との学術的交流を深め、この地域の民族学的研究の進展に寄与するためフィリピン、タイより5名の研究者を招聘して国際セミナーが本館主催により開催された。セミナーは、第I部〔フィリピンの民族学的位置づけ〕、第II部〔北部タイの農民社会〕の2部に分れ、館内外からの多数の参加者をもて、活発な討論が展開された。なお5名の外国人研究者の招聘は、文部省学術国際局および日本学術振興会の援助によってなされた。

組織委員会

委員長

梅棹忠夫 国立民族学博物館長

実行委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第1研究部長、教授

佐々木高明 国立民族学博物館第2研究部長、教授

伊藤幹治 国立民族学博物館第5研究部教授

竹村卓二 国立民族学博物館第1研究部教授

大島襄二 国立民族学博物館運営協議員、関西学院大学文学部教授

石井米雄 国立民族学博物館併任教授、京都大学東南アジア研究センター教授

宮本繁雄 国立民族学博物館管理部長

事務局

江口一久 国立民族学博物館第3研究部助教授

田邊繁治 国立民族学博物館第2研究部助手

石森秀三 国立民族学博物館第4研究部助手

関本照夫 国立民族学博物館第5研究部助手

宮本 勝 国立民族学博物館第5研究部助手

森川国雄 国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係長

日程

セミナー I : ETHNOLOGICAL
SETTING OF THE
PHILIPPINES

3月17日（木）

10:00-10:15

開会の辞 祖父江孝男

10:15-11:30

講師 Alfredo E. Evangelista

テーマ “Ethnological Setting of the
Philippines”

11:30-12:00

討論 座長：大島襄二

14:00-15:30

Evangelista 教授を囲む自由討論

セミナーⅡ：THE PEASANT SOCIETY
IN NORTHERN THAI-
LAND

3月17日(木)

13:30-14:00

開会の辞 佐々木高明

14:00-16:10

オープニング・セッション：In Search
of a New Dimension of 'Lannathai'
Studies

座長：Prasert Bhandhachat

- 1) 報告者 石井米雄
テーマ “Toward a New Approach
to 'Lannathai' Studies”
- 2) 報告者 Sommai Premchit
テーマ “The Palm-Leaf Texts
Survey Project of Chiang
Mai University”

3月18日(金)

10:00-12:00

セッションⅠ：Agricultural Change and
Peasant Society

座長：石井米雄

- 1) 報告者 Prasert Bhandhachat
テーマ “Multiple Cropping Vil-
lage: A Study of Changing
Village in New Farm Prac-
tice of Rural Chiang Mai”

(コメント) 水野浩一

- 2) 報告者 田邊繁治
テーマ “Two Types of Irrigation
in 'Lannathai' History:
their Socio-Political Impli-
cation”

(コメント) Charnvit Kasetsiri

14:00-17:00

セッションⅡ：Buddhism and Religious

Life

座長：白鳥芳郎, 綾部恒雄

- 1) 報告者 杉山晃一
テーマ “Ancestor Worship and
Kinsmen in a Northern
Thai Village”

(コメント) 綾部恒雄

- 2) 報告者 梶原景昭
テーマ “Buddhism in a Northern
Thai Village: Syncretism
or Not?”

(コメント) 青木 保

- 3) 報告者 Sommai Premchit
テーマ “Buddhism and its Impacts
on Secular Sphere in North-
ern Thailand”

(コメント) 石井米雄

17:00-17:20

閉会の辞 梅棹忠夫

Prasert Bhandhachat

セミナーⅠ参加者

ALEGRE, Edilberto 京都大学文学部招聘研究
員

青柳洋治 上智大学文学部講師

EVANGELISTA,
Alfredo E. フィリッピン国立博物館
副館長

深野康久 関西学院大学大学院文学
研究科博士課程

福井勝義 国立民族学博物館第3研
究部助教授

池端雪浦 愛知大学文学部助教授
石毛直道 国立民族学博物館第5研
究部助教授

石森秀三 国立民族学博物館第4研
究部助手

伊藤幹治 国立民族学博物館第5研
究部教授

泉 幽香 国立民族学博物館第5研
究部助手

菊地 靖 早稲田大学理工学部助教
授

小山修三	国立民族学博物館第 4 研究部助教授	石毛直道	国立民族学博物館第 5 研究部助教授
黒田悦子	国立民族学博物館第 4 研究部助教授	石井米雄	国立民族学博物館併任教授, 京都大学東南アジア研究センター教授
松原正毅	国立民族学博物館第 2 研究部助教授	岩田慶治	国立民族学博物館運営協議員, 東京工業大学教授
宮本 勝	国立民族学博物館第 5 研究部助手	梶原景昭	東京大学大学院社会学部研究科博士課程
村武精一	東京都立大学人文学部助教授	北原 淳	神戸大学文学部助教授
野口武徳	成城大学文学部教授	Kwanchai	Chiang Mai 大学社会学部講師
大胡 修	国立民族学博物館第 1 研究部助手	THAITONG	京都大学東南アジア研究センター教授
大島襄二	国立民族学博物館運営協議員, 関西学院大学文学部教授	水野浩一	九州大学比較教育文化研究施設助手
佐々木高明	国立民族学博物館第 2 研究部長, 教授	Prasert	Chiang Mai 大学社会学部社会科学部研究センター所長
関本照夫	国立民族学博物館第 5 研究部助手	BHANDHACHAT	国立民族学博物館第 2 研究部長, 教授
祖父江孝男	国立民族学博物館第 1 研究部長, 教授	佐々木高明	国立民族学博物館運営協議員, 上智大学文学部教授
須藤健一	国立民族学博物館第 3 研究部助手	白鳥芳郎	Chiang Mai 大学社会学部講師
竹村卓二	国立民族学博物館第 1 研究部教授	Sommaï PREMCHIT	Silpakorn 大学人類学科副学科長
VENTURANZA, Aurora A.	フィリッピン総領事館書記官	Srisakra	東北大学日本文化研究施設助教授
セミナーⅡ参加者		VALLIBHOTAMA	国立民族学博物館第 1 研究部教授
青木 保	国立民族学博物館併任助教授, 大阪大学人間科学部助教授	杉山晃一	国立民族学博物館第 2 研究部助手
綾部恒雄	九州大学比較教育文化研究施設教授	田邊繁治	立教大学文学部教授
Chaiwat	Chiang Mai 大学社会学部講師	友杉 孝	国際基督教大学教養学部教授
ROONGRUANGSEE	Thammasat 大学教養学部講師, 京都大学客員研究員	山本達郎	大阪外国語大学タイ語科助教授
Charnvit KASETSIRI	東京大学大学院人文科学研究科博士課程	吉川利治	
飯島明子			

彙 報

合同研究会

昭和52年

3月8日 「狩猟採集社会の自然環境決定要素——縄文時代の場合——」 小山 修三

海外における研究・調査・収集活動

氏名	所属・官職	出発	帰国	行先
杉田 繁治	(第5研究部助教授)	51.12.11	51.12.20	ベルギー
松澤 員子	(第1研究部助教授)	52. 1.10	52. 3. 9	アメリカ合衆国
梅棹 忠夫	(館長)	52. 2. 9	52. 3. 1	ブラジル, パルー
祖父江孝男	(第1研究部教授)	52. 3.29	52. 4. 7	アメリカ合衆国

来館者抄

昭和52年

1月18日	橋本初次郎	大阪大学教授	3月14日	木村 雅昭	京都大学助教授
1月25日	森下 精一	森下美術館長		大橋 保夫	京都大学教授
1月29日	柴田 俊一	京都大学原子炉実験所長	3月22日	有賀喜左衛門	日本常民文化研究所理事長
2月4日	稲田 浩二	京都女子大学教授		保科 賢一	日本ビルマ文化協会
	熊谷 信昭	大阪大学教授			
2月8日	上田 篤	京都大学教授	3月23日	岡本 太郎	現代芸術研究所長
3月3日	Чойн Хунжав	モンゴル共和国外務省文化局長	3月26日	川村 俊蔵	京都大学教授
	John MURRA	アメリカ合衆国コーネル大学教授	3月30日	住谷 一彦	立教大学教授

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川41の1（日本万国博覧会記念公園）

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 2卷2号

審査委員

梅 棹 忠 夫 祖 父 江 孝 男
中 根 千 枝

編集委員

石 毛 直 道 伊 藤 幹 治
加 藤 九 祚 (編集委員長) 小 山 修 三
垂 水 松 原 正 毅

編集事務協力

石 元 宏 勉

昭和52年7月15日印刷 非売品
昭和52年7月23日発行

国立民族学博物館研究報告 2卷2号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.2 no.2
June 1977

SUDO, Ken-ichi
OMORI, Motoyoshi

ISHIMORI, Shuzo

ITO, Mikiharu

NAKAMURA, Takao

Adoption Customs in Micronesia
Violence and Legal Sanction in an East
African Town

Maori Studies: Yesterday, Today and
Tomorrow

Cult Groups in Kerama Islands—Notes
on Folk Religion in Okinawa (1)—

Basket-working in Japan (3): Chūbu
Area



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X